



東京電力パワーグリッド



甲斐市



GREEN THERMAL

令和 5(2023) 年 4 月 28 日

甲斐市

東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社

グリーン・サーマル株式会社

第 3 回脱炭素先行地域の選定について

甲斐市（市長：保坂 武）、東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社（総支社長：大嶋 敬史）及びグリーン・サーマル株式会社（代表取締役：滝澤 誠）は、環境省が全国の自治体を対象に募集する第 3 回「脱炭素先行地域」に共同提案し、本日、「脱炭素先行地域」の一つとして選定されました。

国では、少なくとも 100 カ所の「脱炭素先行地域」において、2025 年度までに脱炭素に向かう地域特性等に応じた先行的な取組実施の道筋をつけ、2030 年度までに実行することで、多様な地域において地域課題を同時解決し、住民の暮らしの質の向上を実現しながら脱炭素に向かう取組の方向性を示すこととしています。

今回選定された提案は、「隼（甲斐）より始めよ”人と資源の循環モデル ゼロカーボンロードで「めぐる」自然とワイナリー」と題し、甲斐市の 7 地域をゼロカーボンロードでつなぎ、脱炭素化と自然の恵みや観光スポットなど地域の特徴を活かし、観光業の発展と農業や地元産業を活性化させることにより、交流人口の増加を伴う循環型の地域発展を遂げる取組です。（別紙参照）

共同提案した 3 者は、今後、構築実現に向け、それぞれが有する知見や技術を最大限に活用し、連携して取組を推進していきます。

（別紙）脱炭素先行地域事業の概要

（参考）環境省ホームページ「脱炭素先行地域選定結果（第 3 回）について」

URL：https://www.env.go.jp/press/press_01538.html

【問い合わせ先】

甲斐市 生活環境部 脱炭素社会推進室

TEL：055-267-6559

東京電力パワーグリッド株式会社 山梨総支社

広報・渉外担当部長 安藤 TEL：055-215-5303

渉外担当

平井 TEL：055-215-5110

グリーン・サーマル株式会社 技術部

佐藤 TEL：03-5510-7215

甲斐市：“隗（甲斐）より始めよ”人と資源の循環モデル ゼロカーボンロードで「めぐる」自然とワイナリー

脱炭素先行地域の対象：3ゾーン(7エリア)+ゼロカーボンロードからなる、7つの「団子」と「串」の市域

主なエネルギー需要家：住宅2,062戸、民間施設・事業所137施設、公共施設37施設、ゼロカーボンロード街路灯142基

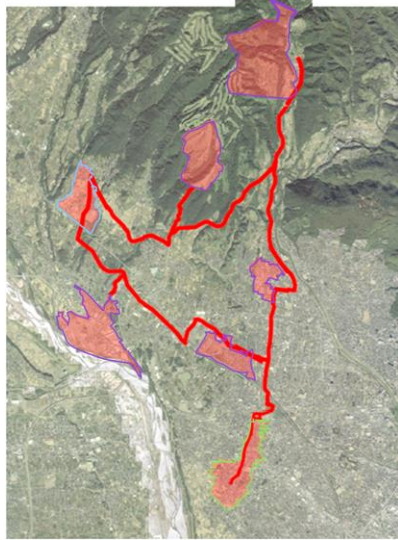
共同提案者：東京電力パワーグリッド株式会社山梨総支社、グリーン・サマル株式会社

取組の全体像

ワイナリーやサービスエリアが立地する**ゼロカーボンワイナリーゾーン**、JR竜王駅や公園整備計画地がある**ゼロカーボン公園ゾーン**、バイオマス発電所が建設中である**ゼロカーボンモデル事業取組ゾーン**と、双葉スマートICやJR竜王駅・塩崎駅を基点として3ゾーンをつなぐ**ゼロカーボンロード**において、太陽光発電・蓄電池やスマート街路灯の導入、ブドウ剪定枝のバイオマス発電での燃料利用により、脱炭素化を実現。これらのエリアをめぐる観光施策やEV急速充電器の整備等により、**交流人口の増加**と**域内経済循環**の実現を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 住宅に太陽光発電(1,146kW)・蓄電池を導入するとともに、民間施設等にも太陽光発電(13,466kW)を導入
- ② 市庁舎を**ZEB改修**するとともに、篠原地区公園内に交流拠点となるZEB施設の整備とスマート街路灯の導入を推進
- ③ ゼロカーボンロードの既存街路灯(55基)の**LED化**と、再エネ電気で自立運転可能な**スマート街路灯**(40基)の新設を進め、システム活用等により運用の効率化を図る
- ④ 建設中の**バイオマス発電**(6,950kW)の燃料として、市内ワイナリーでの果樹栽培で発生する**剪定枝**も活用



7エリアとゼロカーボンロード
(提供：甲斐市)

2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① ワイナリー等、ゼロカーボンロード沿線に**急速充電器**(28台)を設置・拡充
- ② **コミュニティバス・公用車**をEV化し、休日に市民・観光客向けに利用提供
- ③ バイオマス発電の**排熱**を回収し、近隣の温泉、給食センター等へ供給

3. 取組により期待される主な効果

- ① ワイナリー、公園、温泉等の観光施設とゼロカーボンロードとの一体的な整備を進めるとともに、観光施設・交通事業者と連携した「**ゼロカーボン観光**」メニュー組成等により、地域としての魅力向上につなげ、**地域経済活性化**と**交流人口の増加**を図る
- ② 果樹栽培から発生した剪定枝や松くい虫被害木、林地残材等の未利用資源をバイオマス発電において有効活用し、**地域に裨益する資源循環モデル**を構築
- ③ バイオマス発電排熱を活用した地域への熱供給により、災害時の**避難所機能強化**・レジリエンス向上を図る

4. 主な取組のスケジュール

2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
住宅、民間施設、公共施設への太陽光発電設備導入					
篠原地区公園内施設ZEB化					
市庁舎ZEB工事					
ゼロカーボンロード沿いの街路灯のスマート化					
EV充電器導入					
バイオマス発電所排熱利用工事					